



大樹のこころ

七夕集会

本校の良さの一つとして異学年交流が活発であるということが挙げられます。今日は1年生と6年生で「七夕集会」と銘打って楽しい会が催されました。

体育館への入場から交流はスタートします。6年生が1年生の教室まで迎えに行き、手をつないでの入場です。幼い子はお兄さんお姉さんの存在が大好きです。とても嬉しそうに入場してきます。全員が揃うと七夕集会の始まり。最初に6年生有志による「七夕劇」が披露されました。織姫と彦星の物語をユーモアを交えて演じます。このようなユニークな劇を小学校で観たことがなかった1年生は大喜びです。

その後、七夕の飾り付けをします。もちろん1年生と6年生がペアになって行います。この日に備えて準備した飾りや短冊を、ペア学級ごとに分かれて付けていきます。短冊を見ると「ポケモンカードがもらえますように」「ケーキ屋さんになりたい」「大きくなれますように」「クローラーが上手になりますように」などかわいらしいものがいっぱい。一緒に活動していると、仲良くなっていくのが子供というもの。そこかしこでおんぶしたり手をつないだりといった交流が自然と始まりました。

飾り付けが終わると、クイズ大会です。七夕に関する三択クイズを出題し、ペアで相談して答えを決めます。答え方に工夫があります。「①なら手をつなぐ」「②なら肩を組む」「③ならおんぶする」。この回答方法で、1年生と6年生の親密さがぐっと深まります。こんな交流方法を考えた6年生に感心してしまいました。

会の最後を飾るのは「七夕さま」の合唱です。全員が楽しそうに歌う姿を見て、自分も嬉しくなり一緒になって歌ってしまいました。夏の暑さを忘れてしまう素晴らしい会でした。

異学年交流を通して上学年には思いやりの心と企画力が育まれていきます。下学年には上学年への憧れが芽生えていきます。このような交流が伝統的に続けられている大樹寺小学校。良いスパイラルが学校を健やかなものになっているのです。



先日、岡崎市の「どうする家康」活用推進課の方が来校されました。昨年度の3学期、本校の代表委員会が「どうする家康」で徳川家康公役を演じる松本潤さんに手紙を送る「松潤プロジェクト」を立ち上げ、全校児童が手紙を書き、NHKに送りました。手紙の内容は、家康学習を推進する本校の様子や150周年を迎えること、ドラマの感想などです。この手紙、ちゃんとNHKに届き、何と出演者が撮影の合間などに読んでくれているとのこと。「大樹寺小学校さんが、大変良いことをしてくださいました。推進課としてお礼申し上げます」とのことでした。子供たちの声がスタッフやキャストに届いたことをとても嬉しく思っています。